

## ■■■「人文地理」投稿規程 (2016年3月5日改訂) ■■■

### 1. 原則

- 投稿を受け付ける原稿は、人文地理学およびそれと密接に関連する分野の未発表の学術論文としての「論説」「展望」「研究ノート」「フォーカス」(旧来の「フォーラム」と統合)、および「書評」とする。ただし、大会、部会、諸学会、諸研究会等において、口頭により発表された段階のものは、発表要旨が公表・公開されていても未発表のものとはみなす。
- 投稿者は本学会会員とする。ただし、編集委員会がとくに依頼する場合はこの限りではない。共著の場合は、少なくとも1名が会員であることを要する。
- 学界展望(毎巻第3号に掲載)、書評を除いて、同一著者の論文が1年以内に2編以上掲載されないことを原則とする。
- 掲載決定論文等の著作権は本学会に帰属する。詳しくは本学会 Web に掲載の「著作権について」を参照のこと。
- 投稿論文の執筆に際しては、他人の著作権を侵害したり、名誉毀損の問題が生じたりしないよう十分に注意すること。万一、本誌に掲載された論文が他者の著作権を侵害した場合、著者がその一切の責任を負うものとする。
- 既発表論文の外国語から日本語、あるいは日本語から外国語への翻訳は、オリジナル論文とはみなされないため、論説・展望・研究ノート・フォーカスへの投稿を認めない。

### 2. 投稿原稿の種別

論説：実証的または理論的研究の成果として、高度のオリジナリティと完成度を有するもの。

展望：地理学および関連諸分野における研究動向、議論や問題点を紹介し、著者による論評や将来の展望を加えたもの。

研究ノート：論説に準じた完成度を持ち、掲載に値する知見や結果を有するもの、社会的発信力のあるもの、一地域の調査報告、予察的・中間的な研究報告、本誌掲載論文に対する批判・議論などの紹介。

フォーカス：人文地理学の特定のテーマに関する新発見、直近で注目すべき研究動向の紹介、話題性に富み本誌に掲載するに値する地域や事象の紹介など。速報性を伴うものは優先的に扱う。

書評：地理学および関連する分野の国内外の新刊書(投稿時点でおおむね刊行から2年以内)の紹介。なお、「学界展望」は編集委員会からの依頼による。「展望」および「フォーカス」については自由投稿を原則とするが、編集委員会から執筆依頼をすることもある。

### 3. 原稿の構成

- 「論説」「展望」「研究ノート」「フォーカス」についての日本語原稿は横書きとし、執筆要領1欄の内容で構成する。英文摘要(Abstract)については、投稿前にネイティブチェックを受けておくこと。また、必須の英文摘要に加えて他の外国語摘要も付けられる(たとえば研究対象地域で使用されている言語が日本語でも英語でもない場合など)が、この場合は著者が責任をもってネイティブチェッ

クを受けておくこと。なお、英語で書いた論文を投稿する場合は、英文投稿規程を参照のこと。

- ・「書評」の構成は、対象書籍の書誌情報（〇〇著、〇〇編などと記す）『書籍名』出版社名、出版年、総ページ数（目次などでローマ数字の小文字ページがある場合は「234 + iv 頁」のように記す）、本体価格+税、ISBN（ハイフン付き13桁）、評者氏名、本文を順に記す。なお、書評では注や文献一覧は設けず、必要な場合は本文中に書き込むこと。書評の書式は従来のものをほぼ踏襲するが、第68巻第1号より、1ページ目の下部に、送付状にしたがって所属と E-mail アドレスを記すことになった。詳しい書式は第68巻第1号に掲載の書評を参照のこと。

#### 4. 原稿の長さ

長さは、注、文献表、図表、英文摘要などすべての必要事項を含めた刷上りページ数で、「論説」と「展望」は22ページ、「研究ノート」と「フォーカス」は20ページを所定の上限とする。「書評」は2ページ完結で、24文字×{168行－(ロゴ2行＋書誌情報〇行＋空白1行＋評者名1行＋空白1行)}の分量で仕上げる。なお、これらの長さを超えるものでも、「書評」を除いて編集委員会が必要と認めた場合に限り掲載することがある。その上限は「論説」と「展望」が24ページ、「研究ノート」と「フォーカス」が22ページである。ただし、所定の上限ページ（「論説」と「展望」は22ページ、「研究ノート」と「フォーカス」は20ページ）を超過した場合には、原則として次ページ8欄に従った超過料金を著者に請求する。

#### 5. 投稿手続き

投稿者は、原稿一揃（図表や送付状を含む）のオリジナル1部、コピー4部（「書評」はコピー1部で送付状（E-mail アドレスまで）を、本学会編集委員会宛て送付する。送付状は、学会 Web サイトからダウンロードする、もしくは本誌に綴じ込みのものを A 4 サイズに拡大コピーして用いる。送付の際には簡易書留またはレターパック等、配達記録の証明できる手段を用いる。掲載された論文や図の原稿は、前もって送付状で返却が希望されている場合に限って返送する。

#### 6. 原稿の採否

「論説」「展望」「研究ノート」「フォーカス」については、編集委員会が選んだ複数の者によって査読され、その意見にもとづき編集委員会で掲載の可否を決定する。依頼原稿は査読ではなく閲読を原則とする。また、「書評」については、編集委員会において、表現が分かりにくい箇所や誤字・脱字などをチェックする閲読を行う。掲載の可否に従って、編集委員会は、加筆や修正を著者に依頼する。また、受理に至った「論説」「展望」「研究ノート」「フォーカス」原稿、ならびに「書評」原稿の細部については、編集上の都合から文意を損なわないよう万全の注意を払いつつ編集委員会が適宜加筆修正することがある。この場合、送付状に記された連絡先に対して編集委員会から連絡を試みる。なお、刷上り総ページが上限ページ数を大幅に超え、「論説」または「展望」で25ページ以上、「研究ノート」または「フォーカス」で23ページ以上に達すると判断される場合には、審査対象外として査読を経ずに返却することがある。また、審査結果の連絡から1年を超えて再投稿された原稿は、新規原稿として取り扱う。受付日は新規原稿の学会事務局への到着日、受理日は編集会議（持ち回り会議を含む）で S または A 評価となった日とする。

## 7. 原稿の取り下げ

審査結果が B または C 評価で、著者が原稿の取り下げを希望する場合は、ただちに編集委員会まで原稿の取り下げを連絡すること。これは編集業務を円滑に進めるために必要なばかりでなく、二重投稿を避けるための保全措置である。

## 8. 経費負担

投稿料は徴収しない。ただし、刷上りページ数が所定の上限ページ数を超えた場合には、1 ページにつき 5 千円の超過料金を請求する。また、図版の大幅な作成し直しや特殊な印刷を必要とする場合、著者に実費を請求することがある。なお、超過上限ページを超えての有償掲載は認めない。

## 9. 校正

「論説」「展望」「研究ノート」「フォーカス」「書評」の初校のみ著者校正とし、その後の校正は編集委員会で行う。著者校正は原則として誤植・誤字・脱字の修正に限る。

## 10. 論文 PDF と別刷

著者には雑誌に掲載された状態の論文 PDF ファイルを無償提供するが、希望すれば別刷を作成することもできる。別刷は50部を単位とし、その作成代金は、全ページが白黒刷の場合、(論文の総ページ数 + 4) × 8 円 × 必要部数で計算する。カラー印刷のページがある場合は、カラー印刷 1 ページを 4 ページ相当として計算する。別刷代金の納付は、別刷発送の際に同封する請求書に記された金額を確認し、やはり同封する振込用紙にて到着からすみやかに支払い手続きをする。